

凍る水田 除染一気

福島・飯舘

←河北新報
(2012.1.17)

住民と研究者グループ実験

東京新聞
(2012.1.19)
では下記部分
が削除された

福島県飯舘村佐須地区で「掃村」に向けた山林除染などの活動に取り組む住民と研究者のグループが14日、セシウムを含む水田の表土を凍ったままはがし、埋める実験を行った。土中のセシウムの9割は地表5センチ以内にあるとされ、冬の寒さを生かして、一気に水田除染を行える合理的な方法とグループは話している。

このグループは、伊達市内に避難中の農業青野宗夫さん(60)＝村農業委員会議長＝と、東京、つくば市などの研究者、医師らの「ふくしま再生の会」(150人)。

土壌学の専門家、溝口勝東京大大学院農学生命科学研究科教授が実験を提案。冬は表土が凍る高冷地の村の環境と、セシウムの性質に着目した。実験では、青野さんの自宅近くの田んぼを使い、深さ5～10センチまで凍った土をパワーショベルではがし、田の端に掘った同1・3センチの穴に埋めた。

はがされた土は、長さ40センチほどの大ききの固まりになり、セシウムを封じ込めたまま埋めこむことなど処理できる。

仮置き場とする穴には、タムの水漏れ防止工事などに用いられる特殊なマットを敷き、土を密

寒さ生かした「表土はぎ取り式」

閉して覆土をする。マットは、一石二鳥の効果があつた。トは土から地中への水の浸透を防ぎ、また内部にセシウムをよく吸収するベントナイトという土の層を挟んであることか

処理も効率的に



田んぼの凍った土をはぎ取って埋める溝口教授らの実験

＝福島県飯舘村佐須地区

の厚さを目視できない器具も考案。「凍土が5センチの深さになった適期で、余分な土を取ることもなく作業を行える」と言う。

青野さんは「机上の空想と違い、村の実情に合せて莫大(ばくだい)な金も掛からない方法だ。

青野さんは「机上の空想と違い、村の実情に合せて莫大(ばくだい)な金も掛からない方法だ。